



風疹について

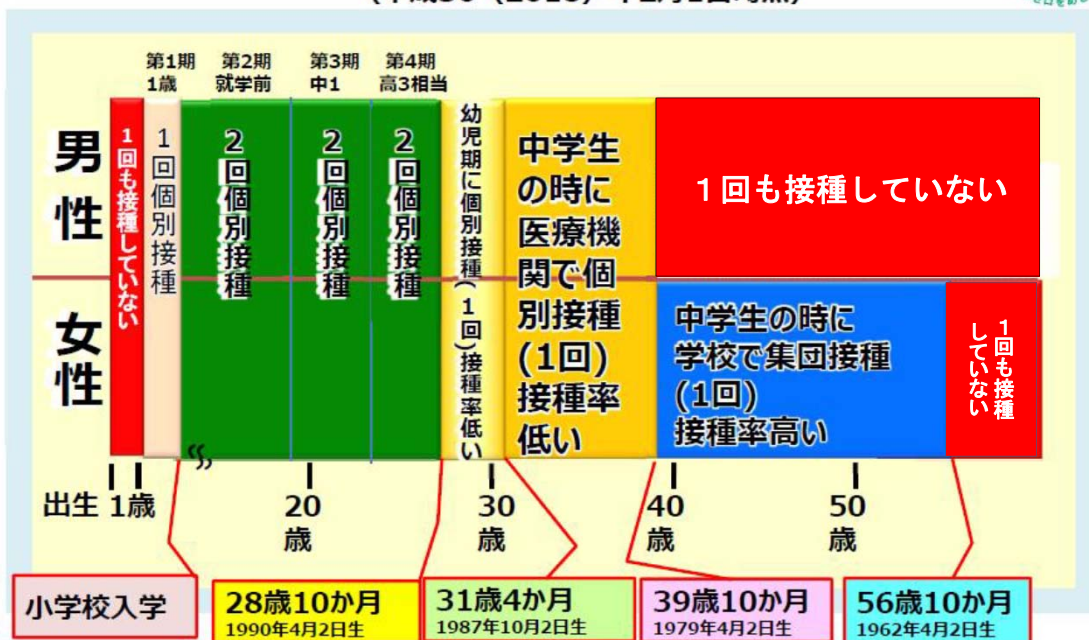
(公財) 鳥取県保健事業団
鳥取市富安二丁目9番4号 Tel 0857-23-4841

予防接種の機会がなかった年代の男性に、無料の抗体検査・予防接種が実施されます！！

風疹は風疹ウイルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症で、風疹への免疫のない集団において、1人の風疹患者から5～7人にうつす強い感染力を持っています。風疹ウイルスの感染経路は、**飛沫感染**でヒトからヒトへ感染が広がっていきます。

予防には**予防接種**が最も効果的ですが、下に示しているように、**予防接種を受けたことのない年代**があります。

風疹含有ワクチンの定期予防接種制度と年齢の関係
(平成30(2018)年2月1日時点)



参考: 国立感染症研究所 感染症疫学センター 「風疹流行に関する緊急情報: 2019年2月6日現在」

風疹の感染を拡大させないために、無料の抗体検査・予防接種が実施されることになりました！

対象：昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性

- ・ 2019年度から3年間実施。
- ・ 2019年度は昭和47年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性に市町村からクーポン券が送付される。
- ・ まずは医療機関か健診機関で抗体検査を受診。
- ・ 抗体検査の結果をもとに予防接種対象と判定された方は医療機関で予防接種を受ける。

※昭和37年4月2日～昭和47年4月1日生まれの対象者の方も希望すれば市町村からクーポン券が交付され、抗体検査・予防接種を受けることができます。

2019年4月以降、順次クーポン券が届く予定ですが、自治体により事業の開始時期や対応が異なるため、詳しくはお住まいの市町村にお問い合わせください



風疹の発生状況

かつては、5年ごとの周期で大きな流行がみられましたが、平成6年以降の数年は大きな流行はみられませんでした。その後平成14年から局地的な流行が報告されるようになり、平成15年から平成16年には流行地域の数はさらに増加、例年0~1名だった先天性風疹症候群が10名報告されました。これを受けて予防接種の推奨や、風疹罹患妊婦への対応、流行地域の疫学調査が強化され、風疹の流行は一旦抑制されました。

しかしその後、平成23年から海外で感染して帰国後発症する例がみられるようになり、平成25年には累計14344例の報告があり、最も多い報告となりました。その後は平成23年以前の水準に落ち着いていましたが、平成30年7月下旬より関東地方を中心に患者数が増加しています。

風疹の症状

感染後、約2~3週間の潜伏期間があります。その後、**発熱や発疹、リンパ節の腫れ**などの症状が現れます。風疹の症状は子供では比較的軽いのですが、まれに脳炎、血小板減少性紫斑病などの合併症が2000~5000人に1人の割合で発症することがあります。また、大人がかかると発熱や発疹の期間が子供に比べて長く、関節痛がひどいことが多いとされています。

風疹に対する免疫が不十分な妊娠20週頃までの女性が風疹ウイルスに感染すると、胎児にも影響を与え先天性風疹症候群になる危険があります。

先天性風疹症候群とは

お腹の中の胎児が風疹ウイルスに感染すると、難聴・心疾患・白内障・精神や身体の発達の遅れなどが起こることがあり、これらの障害を先天性風疹症候群といいます。妊娠20週頃までの女性が風疹にかかった場合起こりやすいといわれています。（妊娠1か月でかかった場合50%以上、妊娠2か月の場合は35%とされています。）

先天性風疹症候群自体への治療法はなく、発生した障害への治療を行うことになります。

風疹ワクチンを1回接種することにより、95%以上の人が風疹ウイルスに対する免疫を獲得することが出来ると言われています。また、2回の接種で1回の接種では免疫がつかなかった方の多くに免疫を付けることが出来ます。さらに接種後年数の経過とともに、免疫が低下してきた人に対しては追加のワクチンを受けることで免疫を増強させる効果があります。

ワクチンで防ぐことのできる疾患ですので、ぜひ抗体検査や予防接種を受けてください。



風疹Q&A

Q：現在妊娠しているが、妊婦健診での抗体検査の結果抗体価が低いことがわかりました。今後どのようにしたら良いのでしょうか。

A：風疹が発生している地域では、不要不急の外出は避けて、やむを得ず外出する際には可能な限り人ごみは避けてください。また、出産後は早期の段階で風疹の予防接種を受けることをお勧めします。また、風疹の抗体価が低い妊婦の同居家族については、風疹にかかったことがなく2回の予防接種歴がない場合は、風疹の免疫の有無を確認するための抗体検査を受けてください。抗体価が低い場合は妊婦と胎児を守る観点からも予防接種を受けるようにしてください。

Q：海外渡航に際して風疹について注意することはありますか？

A：南北アメリカと多くの中東、ヨーロッパ諸国は年間数例から2桁までの非常に少ない報告例となっていますが、多数の患者の報告があるのは主にアジアおよびアフリカ諸国です。風疹にかかったことのない方が海外渡航される際はあらかじめ風疹の予防接種歴を確認し2回受けていない場合、又は接種歴が不明な場合は予防接種を検討していただくことをお勧めします。

